



令和7年度 幼児教育研修（施設長研修）

「保育者が輝く園運営とは」～保育の喜び・楽しさを大切に～

日時：令和7年10月24日（金）15：00～17：00

会場：足立区勤労福祉会館

講師：お茶の水女子大学 お茶大アカデミック・プロダクション

寄附講座教授 宮里 暁美 氏

保育マネジメントとは？

組織や経営の目標やミッション（各園の在り方や特色になっている）を達成するために行うこと。
目標・ミッションの達成を目指す。

導くためのマネジメントスキルを
マネジメント力という。このマネ
ジメントスキルは重要である。

ポイント

マネジメントする人とされる人の関係から、
お互い提案し合う関係になることが良い。

必要なマネジメント力は？

- 人間関係の調整
- やりがいの情勢
- 安心安全の担保 など

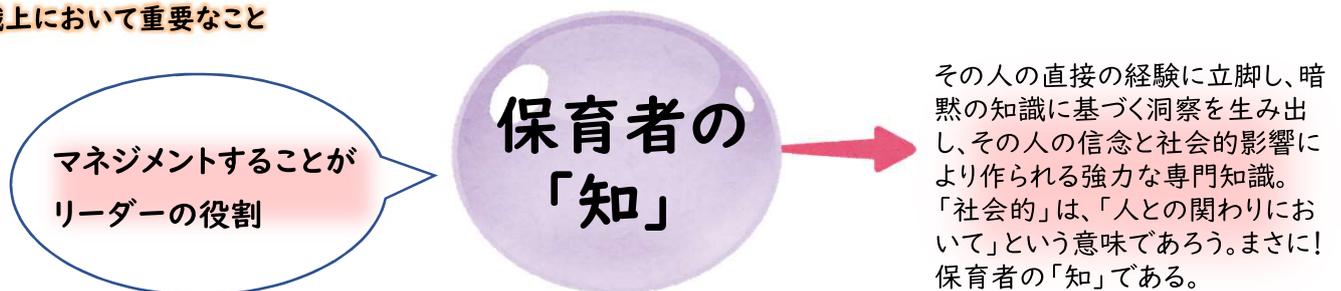


「保育の質を高めるマネジメント」より

2011 矢藤 誠慈郎（建帛社HPより抜粋）

近年、ナレッジ・マネジメント（知識経営）というアイデアが重要視されている。

組織上において重要なこと



保育組織のリーダーシップの基盤

人と人をつなぎ、より良い価値を目指す同僚性の文化を育むこと。同じ園のメンバーの
関わり合いをコミュニティ・オブ・プラクティスの性質に近づけていくことがナレッジ・マネジ
メントの一つの重要な側面である。



発信力

リーダーの大切な
資質のひとつ

人と人をつなぐ



受信力

保育者・子ども・保護者
の思いや知を馳せ、耳を
傾け、目を凝らす。それぞ
れのあり方を、それぞれ
の良さとして受け止める。

組織の人に力を発揮してもらう
ファシリテーターの役割を果たす。

① 幼児期の教育の役割

- **幼児期**は、周囲の大人からの愛情ある関わりの中で、「守られている」という安心感に支えられ、自発的な活動としての遊びを通じて**生涯にわたる人格形成の基礎を気付いていく時期**である。
- **幼児教育**は、教育・保育施設をはじめ、家庭、地域等、様々な場で行われるものであり、**幼児の心身の調和のとれた発達を促すことが重要**である。
- **教育・保育施設における幼児教育**は、「**環境を通して行う**」ことが**基本**であり、幼児が自ら積極的に、人やもの、自然現象などの環境に関わり、体験を重ねることで、**生きる力の基礎が育まれるよう、計画的に環境を構成することが大切**である。

★子どもは「自ら」育つ

環境によって支えられている。子どもの傍にいて、子どもは「自ら」育つ、ということを繰り返し実感する。

★見て触れて、遊んで感じる!

子どもは感じている。

★子どもは「探究」する

小さな「？」が心を揺さぶり、様々な取り組みにつながる。

一緒に驚く大人がいる、一緒に面白がる大人がいることで、自ら探究する子どもが育っていく。

★子どもは没頭する

繰り返し 繰り返し 引き込まれるようにして時間が過ぎていく。

★子どもは「今」を生きている

やりたいことが目に見える取り組みになっている内面の広がり的大事にしたい。

② 新しい時代と社会に開かれた教育課程

新たな学校文化の形成

予測できない未来に対応するためには、社会変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その**過程を通して**、一人一人が自らの**可能性**を最大限に発揮し、よりよい社会と**幸福な人生**を自ら創り出していくことが**重要**である。

一人一人の能力を育てる。子どものやってみよう、やってみようを大事にし、向き合う姿勢で受け止めていく。みんなのやってみようがかなう保育、いっぱい遊んで嬉しい、楽しいやり取りが、幸福を感じる。



Q&A

Q: 指導・伝え方が難しい。どう伝える?

A: 直接的に話すと、落ち込む姿につながるのので、保育に入って一緒に過ごし、行動で示すと良い。

Q: 保護者のニーズが変わってきている。どう対応すると良い?

A: 現代は色々調べられる時代。正解が解りすぎている方が多い。どれをどうしたら良いのか、最後の決断を聞きたいという人が多くなっている。柔軟に対応する必要がある。

研修生の
報告書より

★園運営について、組織のマネジメントから保育内容、教育の役割など幅広い観点からわかりやすく学ぶことができました。子どもは育つ力があり、その発達や育ちを援助する事が保育であるとの原点に立ち返りました。

★職員一人一人が体験から獲得した経験知や力が発揮できる機会や状況をどうつくるか。保育を見直す時間が経験知の向上、そして、組織の向上につながる。若手からベテランまで一人一人の力が発揮できる組織づくりをしていきたい。